



開催日時 2010年7月3日(土) 14:00~16:00

場所 トキ交流会館 大ホール

参加者 一般31名、関係機関8名、事務局9名

座談会進行役 桑子敏雄(東京工業大学大学院・教授)

## 中流部再生後の利活用について話し合いました

今回の水辺づくり座談会には、「佐渡伝統文化と環境福祉の専門学校」の学生や「佐渡中等教育学校の学生」等、若い方にも多く参加いただきました。

座談会では、「天王川をどのように利用したいか」、「中流域の名前を考えよう」というテーマについて話し合いを行いました。

話し合いでは、意見をポストイットに記入し、発表する形式で行いました。(次頁写真参照)

### 「天王川をどのように利用したいか」について

利用については、「天王川で生物に関する調査を実施したい」という意見が多くありました。

参加した佐渡中等教育学校科学部の生徒達から、「自分達で天王川にいる生物を調べたい」という意見があり、この意見に対し、新潟県 佐渡地域振興局及び、環境省 佐渡自然保護官事務所は、「調査実施に協力していきたい」との考えを示しました。

また、調査だけでなく、「学生や技術者が河川・湿地再生の技術を学ぶ場としても活用したい」という意見も出ました。

### 「中流域の名前を考えよう」について

中流域の名前を考えることは、座談会進行役の桑子先生の提案により、天王川の自然再生に親しみを持ってもらうため、議論することとなりました。

名前を考える際は、河川だけでなく、周辺の農地や山林も含んだ、中流域の谷全体の名前を考え、参加者の意見を出しあいました。

参加者は、天王川の利活用方法と関連づけながら中流域の名前を考え、様々な案が提示されました。(次頁、四角枠内参照)

名前の決定方法については、座談会での話し合いをもとに、今後、新潟県 佐渡地域振興局が、関係機関と協議していきます。

話し合いにより、以下の事項を決定しました。

## 第10回座談会で決めたこと

- ・「佐渡伝統文化と環境福祉の専門学校」と「佐渡中等教育学校の科学部」をはじめ、みんなで生き物調査の方法を学び、新潟県、佐渡市、環境省と協働で調査をする。
- ・湿地再生、河川再生の技術を学ぶ場として活用する。
- ・県は市と相談のうえ、中流部の名前をどのように決めるかを相談し、広く意見を募って決定する。今日の話し合いで提案された名前も参考にする。
- ・県は土砂の流出、治水対策を考慮し、地域と相談しながら事業を進める。
- ・今日の話し合いを踏まえ、県は中流部再生の設計を行い、その内容を決定する前に座談会を開催する。

## 話し合いの様子



### ワークショップで参加者が提案した中流域の名前

桃花鳥谷（トキダニ）の里、桃花鳥の水辺、渦上トキの里、トキの谷地（ヤチ）暮らしの創造の谷、トキ再生の谷、トキのオアシス谷、トキトキ交流の里、清流トキの里、トキと人が共生する谷、ホタル・トキめっ区、日本一のビオトープ、好奇心の川、トキが好き！ホタルが舞う谷、皆楽清里、いろんな生き物が来る川、ウスクラ沢憩いの水辺、トキと自然が共生する谷、天王川いのちの水辺、トキ舞の里、トキも遊んでラス、天王トキと人の憩いの場、トキが見つめる森・川・湖、想ひ川、トキめき谷、“つながり”の里、生き物広場、THK（トキとホタルが暮らす）、朱鷺舞い降りる命の水辺、郷川、あそぶっ地谷（あそぶっちゃ）、とっきっ子谷地

### 「佐渡伝統文化と環境福祉の専門学校」の学生から研究成果について、紹介いただきました

座談会では、金井にある「佐渡伝統文化と環境福祉の専門学校」の学生達に、「天王川再生をはじめとする佐渡の環境保全活動について」、自分達の考えを発表していただきました。

その考えの主な観点は、次のとおりです。

美しい景観と豊かな暮らしを守るための定期的管理の必要性。

地域住民が、身近な生物と周辺の環境について知り、環境再生に携わることの必要性。

生き物と人とのふれあいの場の創出の必要性。

学生達は、これらの観点にもとづいて、「人が自然と楽しくふれあい、生き物がのびのび暮らせる川」というコンセプトを提案し、河川やビオトープの維持管理を実施していきたいと発表しました。



### 今後の展開

今後は、これまでの座談会での話し合いを踏まえ、中流部での土質や地下水等の調査を実施し、技術的な検討作業を進めていきます。

次回の座談会では、技術的な検討結果を踏まえ、設計が整理できた段階で、再生案を座談会に提示し、意見交換を行います。